

後記

蓋し、忍苦教年の試鍊を経、社会万般、略々常軌に復し、斯学の眞価、再び世に光彩を放たんとする今日、東京文理科大学漢文学会報最終記念号、やがては、東京教育大学漢文学会報第十五号の母体たるべき本会報が、第六回漢学大会並びに総会を期して、刊行されることは誠に意義深く、本学会、あるいは、斯学発展のため、慶賀に堪えないものである。

本会報作製に当つては、企畫当初より、完成の今日に至る間、編輯諸般の不備は勿論、加うるに、出版事情の好転未だし等の悪条件下に終始したのであるが、幸に、委員会を中心とする全会員の積極的な協力を得て、御高覧の如く、本号は、質、量共に記念号としての、一応の体裁を整え得たのである。従つて、本会報に關し、若し、謙辞ありとせば、委員会を中心とする全会員の熱意に歸すべく、若し批判・叱正ありとせば、編輯部の不手際に歸すべきか。

とまれ、本会報完成を数日後に控え、半歳の迂余曲折の跡を偲びつゝ、正興社松田氏並びに關係各位に対して、満腔の謝意を表し、以て後記とするものである。(一九五三・六・一五、飯田・緒形記)

筆者紹介

内野熊一郎	東京文理科大学教授
河野六郎	東京文理科大学助教授
松下忠	和歌山大学教授
今井宇三郎	東京文理科大学助手
安居香山	東京文理科大学助手
中村彰八	東京文理科大学研究生
古沢未知男	熊本女子大学助教授
裏善一郎	鹿児島大学助教授
牛島徳次	東京教育大学講師
鈴木修次	東京教育大学助手
飯田吉郎	東京文理科大学特別研究生
水沢利忠	国会図書館嘱託

漢文学會々報 第十四号

昭和二十八年六月二十日印刷
昭和二十八年六月二十五日発行

(非賣品)

編輯責任者 今井宇三郎
印刷所 株式会社 正興社

千代田区丸ノ内丸ビル七四八

發行所 東京教育大學
漢文學會